

わしま よめさん

梅田 原田千鶴さん
(世帯主 清一さん)



千鶴さんは柏崎市・俣内田製作所に勤めておられ柏崎市から嫁いで来ました。
主人の隆司さんも俣内田製作所に勤務され、昭和五十八年に今の会社で知り合われ六十二年秋に結婚されました。

原田さんは現在、父母、若夫婦として一歳五ヶ月になる大樹ちゃんと祖母の六人家族です。
— 村の印象はいかがですか？
こちらは雪が非常に少なく、実家の方と比べますと半分しか降りません。また、体育施設も他の市町村とほとんど同じです。それから、家は国道から大部離れていますので大変静かな所だと思います。
— 勤め人の家庭から農家に嫁がれて何か戸惑ったことはありますか？

こちらへ来て満二年が過ぎましたが、農家の仕事はあまり手伝えませんが、でも、田んぼや畑が自分の家にあると良いと思います。近くの畑から季節の野菜が採れるので新鮮で大変うれしいです。
— 村や地域に対して何か意見や要望はありますか？
分水や長岡へ出掛けなくとも村にスーパードが欲しいと思います。また、子供たちが楽しく遊べる公園(遊園地)が欲しいと思います。

輪の友情を 読者リレー



われら仲間シリーズ(67)

遊び心

池内 明さん(新田)

ちよつと会話遊びをしてみます。動物を三種類、思い浮かべて下さい。また、それぞれ三つずつ特徴をあげて下さい。
読むのを止め、天井を見ながら、目をつぶりながらでも腕組みし、しばし思い浮かべ、遊んで下さい。会話を楽しむ場をつなぐというものです。
以外と宴会の席など、上司の悪口・愚痴・失敗談が多く、楽しく会話するというのは少ないようです。
ひよつと、ポケットから『遊び心』を取り出すのです。話の内容が変わり、奥ゆかしい余裕となり、センスの良い独自の雰囲気醸し出します。
人生八十年です。私も八十年、人生を歩まねばなりません。この頃、仕事柄、老人の紹介します。
私はどんな姿か、各世代の私はどんな人間となっているかなあと想像します。常に「遊び」奥ゆかしい余裕・センスの良い独自のゆとり」を持つた人格者であろうか……。
人生計画という固いイメージするのとも一興です。
遊び心(精神的自己啓発と他人への思いやりの力と余裕)を形成できたと思います。はたして死を迎えるまでに成就できることやら……。
冒頭の話し、動物とその特徴ですが一匹目は自分の理想像。二匹目、人からどう見られているかの自分。三匹目、現在の自分なんだそうです。

| 人口の動き | |
|-----------------|------|
| 11月末現在 | |
| 出生3人 | 死亡3人 |
| 転入2人 | 転出4人 |
| 世帯数 1,279世帯(+1) | |
| 男 2,759人(±0) | |
| 女 2,864人(-2) | |
| 計 5,623人(-2) | |

昭和64年1月

広報



わしま



もちつき大会

昨年十二月八日、島田小学校でもちつき大会が行われました。
今回も島田地区農協から援助をもらいました。待ちかねた子供たちはPTA役員や父兄と一緒に、代わる代わる杵を持ち「よいしょ、よいしょ」とかけ声高くもちつきを行いました。

主な内容

- 2・3頁…年頭のごあいさつ
- 4頁…共同募金お礼
- 5～17頁…明るい家庭づくり運動作文
- 18・19頁…ワシマスポット、村長室の黒板
- 20頁…わしまのよめさん、読者リレー



年頭のご挨拶

和島村村長 清野精合

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は村政に大変ご協力を賜わりありがとうございました。

本年もよろしく願います。

昨年を回顧いたしますと、年末におけるアルメニア地震、七月十日の集中降雨等を始め戊辰年のたとえ通りの激動の年でありました。

国際交流、貿易が質量共に増大し、同時に円高が並行増進し、貿易収支の不均衡は強く我が国に外圧となつて押しよせています。

特に農産諸品目は順次解放され、残された米についても輸入自由化が迫られ、年末迄その攻勢が続きましたが他の国際間交渉の過程において年越しとなり、日米二国間交渉のぎりぎりの線に立たされることになりそうであります。

一方国内経済は内需拡大政策がとられて二年目、公共投資、民活と大型景気といわれる動向を示しました。

さて今年はい年であり金縁ふくらむ年といわれていますが、すべての国民の生活が安定且つ充実したものになりたいものです。

村の行財政はお陰様で順調な推移をたどり、特に財政は足腰の強い健全な指数を示しております。

住みよいくらしの基本となる道路の整備は、国道バイパスは地権者のご協力によって村内の全地域に亘って用地調印が完了し工事の促進を待つのみとなりました。

阿弥陀瀬道計画も正式に採択され調査が始まり、与板―北野線、小島谷―久田線等

県道改良も着々進められていきます。村道については良寛の里関連事業の中で山田郷内線が今年から着工されます。多年要望の郷本川改修も中小河川改修事業として採択されました。

農業は米の自由化攻勢の中で更にきびしい事態を迎えることになりませんが、之に対応出来る低コストで美味しいコシヒカリ等の生産が更に進められなければなりません。

農地流動化を促進し再圃場整備等、基盤整備構造改善を更に進めることについて農家各位の御理解を頂きたいと存じます。

今進めている農業振興地域の見直しによって優良農地を確保し併せて農村工業導入、住宅地の造成等と村土地利用の効率をはかりたいと考えます。

本年からの新事業として特定環境保全地域及び農業集落排水指定地域における下水道布設工事と、良寛の里事業の着工推進であります。

特に良寛の里事業については地権者の御協力によ

って約三万平方米の用地を確保出来ました。

良寛さんが晩年をこの地に選んで過した理由は木村家の招請と当時のむら人の心情がピッタリ合った故だと思います。

かつて山谷の丘に美術館としたであろう山谷の丘に美術館並びに当時の街なみの一部を再現し、良寛を訪ねてお越し下さる全国各地の方々を、当時のむら人の気持になつて気軽に温くお迎えしようではありませんか。

ふるさと創生、むらおこしの柱として推進したいと思ひます。

きびしい諸環境ながら心身の健康が増進され、更に長寿社会が進んでいます。

生涯教育、高齢化社会福祉の推進が必要であります。

村の活性化をはかり、充実した村づくりを進めたいと思ひます。どうぞ明るく健康の年であるようお祈りしてごあいさついたします。



年頭のごあいさつ

村議会議長 山田 忠

明けましておめでとございます。村民の皆様には、日頃から村政に対する暖かいご理解と絶大なご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

お陰をもちまして昨年にも着実に発展への基盤を固めてまいりましたが、ここに新年を迎え、本村の一段の躍進を期して、清新の気がみなぎるのを覚えます。

しかし、わが国の社会経済情勢は、高齢化、高度情報化、国際化が急速に進展するなか、経済の面において内需主導型経済構造への変革等経済調整が急がれており、加えて急激な円高値の更新、また農産物市場開放問題などが地域経済に与える影響は非常に大きく、行政需要はその量・質ともますます複

雑多様化し、一段と厳しくなるものと予想されます。

私も議決機関といたしましては、村民生活の安定向上を図るため、今後さらに創意工夫を重ね、村民皆様方のご期待にこたえるよう決意を新たにしておりますので、どうか本年も相変らぬご支援、ご協力を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

新年のごあいさついたします。



新年のごあいさつ

首都圏ふるさとわしま会会長 宮田 清一

郷土和島村の皆様、新年明けましておめでとございます。

私も「わしま会」も、お陰様で満八歳を迎えることができましたが、これも偏に村民並びに会員の皆様様の、温かいご指導と郷土愛の賜ものと、役員一同深く感謝いたしております。

昨年は、対話のある新しい村づくりを目指す「わしまつり」に私および小林幹事長をお招きいただき、誠にありがとうございました。

また「わしま会」総会に残念ながらご参加はいただけませんでした。山田助役さんをはじめ多くのご参加をいただき、心温まる激励、和島村の近況とりわけ「良寛の里」構想による観光事業にかけます情熱を拝聴するに

つけ、郷土が着実に伸長されていることに安堵の感を深めました。今後この観光事業の着工・実現が地域活性化に結び付き、強いては和島村全体の発展と繁栄に大きく寄与されること確信いたしております。そして、私たち会員一同もこの事業完成のために、できるかぎりの側面からの協力を惜しまない所存です。おわりに、郷土和島村の益々のご発展と繁栄を祈念しまして、新年のご挨拶いたします。

要はその量・質ともますます複



明るい家庭づくり運動作文

和島村青少年育成村民会議 和島村教育委員会



わたしもおこめがつくれるよ

島田小1年 山口ともえ

わたしは、田うえといねかりのおてつだいをしました。田うえのときは、はだして田んぼに入ってなえをうえたり田うえきになえをもつていたりしました。わたしが、おとうさんのうえているうしろについていたら、おとうさんのあしにぶつかってどろんこになってしまいました。わたしは、ふくがよごれたので、おとうさんといっしょに、トラックののって、うちへかえりました。

あきがきて、いねかりになりました。わたしは、また、おてつだいをしました。わたしは、おとうさんといっしょにコンバインにのりました。もみが、いっばいになったら、おばあちゃんにしらせるかからだからです。わたしが、

「おばあちゃん、いっばいになったよ。」というとおばあちゃん「はい、はい。わかったよ。」

「はい、はい。わかったよ。」

「はい、はい。わかったよ。」

「はい、はい。わかったよ。」



おとうさん、おかあさんのしごと

桐島小1年 藤井りえ子

わたしのおとうさんとおかあさんは、まいにち、かいしやにでかけていきます。おとうさんは、ゆうびんきよくにつとめています。おかあさんは、デパートにつとめています。だから、おとうさんのしごとは、ゆうびんきよくにあつまった手がみやこづつみをわけるしごとです。お正月がちかづくと、とってもいそがしくてたいへんだそうです。

おかあさんのしごとは、デパートで子どもふくをうるしごとです。いろいろなふくをうって

じゅんべいが、

「わあ、おねえちゃん、おもしろいや。」といってわらいました。わたしもとってもおもしろかったです。

よるになっておとうさんたちが、ほめてくれました。わたしは、うれしかったです。らい年も、おてつだいをしたいです。

だから、わたしも、ときどき、お手つだいをします。おかあさんには、おりようりの手つだいをします。てんぶらをあげるときころもをつたり、一人で、かいものにつたりします。でも、もっといっばいお手つだいをしたいとおもいます。

わたしと、おとうさんと、おかあさんと、おにいちゃんと、おねえちゃん、いっばいあそびたいです。

人命救助に より感謝状

十二月七日、人命救助に功労のあった道城下の早川かず江さん、中条町の八幡正美さん、八幡祐二さん、新潟市の佐々木司郎さんの四名に与板警察署長から感謝状が贈られました。



早川さんは十一月二十四日、村の川幅十六メートルの郷本川に転落し意識を失っている方を発見し、他の三人と協力して救助したものです。

また、副賞として送られた金一封を交通安全に役立てて欲しいと与板警察署へ寄付されました。

国民年金から 20歳のあなたへ

新成人の皆さん、おめでとございます。

さて、今、日本はものすごいスピードで高齢化が進んでいます。ますます長くなる老後の生活を、今のうちから考え、それを支える年金制度について知ること、成人としての大切な権利であり義務ともいえます。

成人されたばかりの皆さんにとって、老後生活の安定などあまり気にかけないことでしょうか。しかし、私たちはいつまでも若く元気でありたいとはかぎらないのです。生命保険に入るから……、貯金するから……という方もいるでしょうが、個人の力には限界があります。

「国民年金」は、その名の通り、国民年金に加入し、みんなでお金を出し、国が負担していただきます。

働ける世代が保険料を出し合い、それを財源としてお年寄りの世代に年金を支給することで、老後の生活の安定をはかる世代と世代の助け合いの仕組みなのです。

皆さんが国民年金に加入し、保険料をきちんと払っていただければ、皆さんの老後も次の若い世代が助けてくれるということになります。

だから、二十歳から六十歳までの人は、原則として全員が国民年金に加入しなければなりません。

このように国民年金は、自身への将来設計の準備になることをご理解いただけましたでしょうか。より豊かな老後を送るため、二十歳になったら国民年金に加入しましょう。

あなたの年金、働き始めましたか？

詳しくは、役場の国民年金係にいつでもご相談ください。



ありがとうございました 共同募金一、二二二、七六一円

十月一日から実施致しました赤い羽根共同募金につきましては、区長はじめ、事業所、学校、村民の皆さんの協力により別表の実績をあげることができました。厚くお礼申し上げます。募金は、新潟県共同募金会へ納入し、六十四年度に募金の配分金が和島村社

会福祉協議会に約九十六万円交付され、本村社会福祉の財源として活用されます。

○戸別募金 八九三、三〇〇円
○事業所募金 二二二、〇〇〇円
○学校募金 四三、五五九円
○その他 六三、九〇二円

| 地域名 | 募金額(円) | 地域名 | 募金額(円) |
|-------|--------|-------|---------|
| 上小島谷 | 23,100 | 上 桐 | 65,100 |
| 中小島谷 | 28,700 | 三瀬ヶ谷 | 10,500 |
| 下小島谷 | 37,800 | 北 野 | 33,600 |
| 駅前 | 79,800 | 根 小屋 | 14,000 |
| 下 富岡 | 39,900 | 荒 巻 | 38,500 |
| 若 野 浦 | 10,500 | 新 田 | 17,500 |
| 阿弥陀瀬 | 21,700 | 中 央 | 27,300 |
| 高 畑 | 15,500 | 下町上 | 37,100 |
| 日 野 浦 | 33,600 | 下町下 | 44,800 |
| 中 沢 | 39,200 | 川 端 | 28,000 |
| 梅 田 | 13,300 | 道 城 下 | 22,400 |
| 東 保 内 | 47,600 | 法 善 町 | 14,700 |
| 村 田 | 44,100 | 寺 町 | 17,500 |
| 城 之 丘 | 28,700 | 小 谷 | 4,900 |
| 両 高 | 53,900 | 合 計 | 893,300 |



おかあさんのしごと

島田小二年 ほし歩み

わたしのおかあさんは、みしまえんというとくべつようごろう人ホームではたらいっていますとくべつようごろう人ホーム

というの、体のふじゆうなおじいさんや、おばあさんがいるところだそうす。

おかあさんがどんなしごとをしているかという一人でおべんじよにいけない人のおてつだい

いや、オムツをかえたりしていただきます。体がきたなくならないようにおふろにいれてあげたり、体やかおをふいたり、かみの毛をとかしたりつめをきつたりするそうす。

ろう人ホームは、学校とちがつて、おじいさんや、おばあさんの家です。だから夜もとまっています。おかあさんもとまりのときもあります。夜中も、オムツをかえたりしていろいろせわをします。

わたしは、とまりなんかなければいいと思っていたけど体のふじゆうな人のためだからだんだんといいと思

いました。おばあさんや、おじいさんは自分でできることなら自分でやっています。体のふじゆうな人のためにおかあさんは、がんばっています。

わたしはおかあさんがえらいとおもいます。おかあさんは体のふじゆうな人とともだちになつてとてうれしそうです。わたしもおばあさんやおじいちゃんともだちになりたいです。

雪どけの時は、長くつがなかったので、上きゆう生から、おんぶしてもらって、学校へ行ったそうす。それを思うと、今は、あんなによい道ができて、しあわせだと思

でもみらいには、もっとよくなるのかなアと思うと、うれし

しかし、おばあさんたちが、学校へ行く時、雨がふっていると、ござぼしという、ござで作ったぼうしをかぶったり、ふゆは、ふかぐつとゆう、わらで作ったものをはいたそうす。

冬の夜は、さむいので、わらで作ったふとんでねむったようすです。「あたたかかったのかなア」と、わたしは、思います。

そして、お米も、わらでたいたそうす。

おばあちゃんの、小学校一年生ぐらゐのころ、やっと電気がついたそうす。それまでは、学校から帰ると、ランプのそ

じをしていたそうす。夕方までにしないと、おこられたんですって、大へんだったんですね、やっばり。

わたしは、むかしのことを考えると、今は、せいたくなくらしをしているんだなア、と思

わたしも、家でおかあさんの手つだいをしたことがあります。ちやわんをあらったり、ごはんをもつたりはしをくばったりいろいろ手つだいをします。はしをくばるのは、かんたんですがごはんやおつゆをみるのはめんどうです。だけとおもしろい



おばあちゃんから聞いた

桐島小二年 早川 絵里子

わたしは、むかしのくらしは、とてもふべんだったのかな、と思

いました。それは、電気もきかいもないからです。

わたしは、今とむかしのちがいにきようみをもって、おばあちゃんに聞きました。

まず、お米作りのしごとなども、むかしは大へんだったんですね。

まずは、やっばり田おこして

わたしは、むかしのくらしは、とてもふべんだったのかな、と思

いました。それは、電気もきかいもないからです。

わたしは、今とむかしのちがいにきようみをもって、おばあちゃんに聞きました。

い

でも毎日じゃないのでおかあさんは、「どうして手つだいをしてくれないのかなア」と思っているでしょう。でも、わたしはそんなこと気にしていません。ただだんだん気になってきました。わたしがてつだっているのかあさんやおばあちゃんやたいへんそうす。

でもてつだいをやる気がありませんでした。だけとおじいちゃんやおばあちゃんが手つだっているのかあさんやろうかなと思



す。

すきというどうぐを使ったそうす。大きいので、牛や馬にひかせました。

牛や馬をかつていない人は、くわを使って一かぶ一かぶをおこしたそうす。

つぎは、ならします。

たがやした田に水を入れ、馬ぐわで、こまかくしたり、たいらにならしたりしました。

馬ぐわは、牛や馬をかつてい

ない家は、くわでならしました。つぎには、こうし(じょうぎ)を使って、なえをうるしるしをつけるそうす。

そして、草をとるときには、回てんしきじよそうきを使ったそうす。または、手でとったようす。

回てんしきじよそうきは草をとるとき、おしころがして、田の草を土にうめこみました。そして、秋になると、いねを



お父さんのしごと

島田小三年 袖山 しげる

ぼくのお父さんはブルボン

マンダにつとめています。

お父さんは、ぼくの家の近くにあるブルボンマンダだけでなく、本社やほかのブルボンマンダに行きます。

お父さんは、ほとんど9時ごろ帰ってきます。だからぼくはあまり遊べません。でもまだぼくはおきてるから、ときどき学校の話をしたりします。でもお父さんは10時30分ごろにねてしま

います。ぼくはよほどつかれるんだなアと思

ました。ぼくはときどきブルボンマンダはたまに、お父さんを休ませてくれたっていいじゃないかと思

うと遊んでもらいたいので、「でもどうしてもと遊んでくれないの。」と聞くと、「それならなにも食べられなくてもいいの。」と言ったので「なんで食べものの話がでてるの。」と聞いたら、「お父さんがはたらいて、お金をもらって食べているんだよ。」と言いました。それで分かりました。お父さんは家ぞくのためにはたらいからぼく一人のために会社を休めないのです。ぼくはお父さんはえらいと思

かりとって、はぎにかけます。

そして、大むかしは、千ばこきに、いぬをひつけて、もみをこきとったそうす。

そのつぎは、足ぶみだつこくきが、千ばこきにかわって使われたそうす。

つぎには、ふるいでもみにまじったわらくずをふるってとり

わたしは、むかしのくらしは、とてもふべんだったのかな、と思

いました。それは、電気もきかいもないからです。

わたしは、今とむかしのちがいにきようみをもって、おばあちゃんに聞きました。

まずは、お米作りのしごとなども、むかしは大へんだったんですね。

まずは、やっばり田おこして

わたしは、むかしのくらしは、とてもふべんだったのかな、と思

いました。それは、電気もきかいもないからです。

わたしは、今とむかしのちがいにきようみをもって、おばあちゃんに聞きました。



七番目の家ぞく

桐島小三年 早川 愛子

今年の八月、わたしの家の工場に、子ねこがまよいこんできました。家では、かつていた犬がしんでから、動物がしぬのを見るのはかわいそうだから、動物はかわないことになっていました。子ねこがまよいこんできたときも、わたしは、「かつてあげたいなあ」と思いましたが、家の人が、かつてはいけなさと云ったので、かわいそうだと思っただけで、お母さんといっしょに、その子ねこをすてにきました。

お母さんから話を聞くと、その子ねこは、五日くらい何も食べないで、なっていたそうです。だから、おなががすいてしぬんじゃないかと、心配でしかたありませんでした。

ところが、家のおばあちゃんにおねがいして、やっとかうことができました。とつてもうれしかったです。

その日、おばあちゃんも手つだつてくれて、車庫の中に、ねこの家を作りました。さんねん

ながらこのときは、家の中でかつてもえなかつたのです。でも、その日から、わたしとお母さんで、ねこのせわを、いっしょけんめいやりました。

九月もおわり近づいたころ、外もだんだん寒くなりました。それを見て、「家の中でかつてあげたいなあ」といつも思っていました。

十月に入ったある日の朝、おじいちゃんが、ねこをひざの中に入れて、だっこしていました。おじいちゃんに聞くと、「寒くなつてきたから、ねこもかわいそうだからな」と言つて、ねこを家の中に入れてくれることをゆるしてくれました。わたしは、「やっただ」と思いました。

ところが、まだいまには入れてもらえませんでした。ほしもの場に、毛ふを入れたはこをおいて、そこでかいました。

二、三日おいていたら、ねこが、だれも出さないのに、家の中をうろうろしていました。それは、ねこが戸を開けるのを

ぼえたからでした。あんな小さいねこが戸を開けたので、「頭のいいねこだ」とみんなに気に入られました。

そして、いまに入れてもらえるようになりしました。今では、おじいちゃんは、朝おきると、手でねこをじゃらかして、わらっています。おばあちゃんは、「わたしは、あんまりねこがす

きじゃない」と言つて、かまいませんが、「こんなにかわいい顔をしたねこはいない」と言つてほめてくれます。

お父さんは、「チーや、チーや」と言いながら、あぐらの中に入れて、かわいがっています。お母さんは、ねこが大きいので、ねこのトイレをかえてあげたり、一週間に一回、ねこをあらつてあげたり、外からねこが帰ると、足をふいてあげたりします。

弟の大介と言えば、ねこが近づいてくると、キヤーキヤー言つて、にげまわっていたのに、

今では、ねこをあいてにして、遊びまくっています。わたしからみると、ねこは大へんめいわくそうな顔をしているように思えます。

わたしは、家に帰つてきて、ねこをだくのが楽しみで、動くぬいぐるみみたいにして遊んでいます。

はじめは、家にも入れてもらえなかつたねこが、今では、なくてはならない人気者の、七番目の家ぞくになっています。



大変なお父さん

島田小四年 久住 恵梨奈

わたしのお父さんは、つばめ市の会社につとめています。日曜日には田んぼへ行つて仕事をします。たまに、消防で出かけて行くこともあります。大変いそがしいんだと思います。

お父さんの会社は鉄クズを集める会社です。お父さんはトラックに乗つて、鉄クズを集めるのです。その鉄クズは別の会社に運ばれてまた、大きな一枚の鉄の板になるのだそうです。お

わたしのお父さんは、つばめ市の会社につとめています。日曜日には田んぼへ行つて仕事をします。たまに、消防で出かけて行くこともあります。大変いそがしいんだと思います。

お父さんの会社は鉄クズを集める会社です。お父さんはトラックに乗つて、鉄クズを集めるのです。その鉄クズは別の会社に運ばれてまた、大きな一枚の鉄の板になるのだそうです。お

お父さんは、会社で重い鉄クズを運んだりするので、「かたがいたい。」

と、よく言います。でも、日曜になると弟のゆうすけに野球を教えて、遊んでくれます。その時は、わたしも、お母さんといっしょにします。

お父さんは、中学の時、野球をしていたそうです。ポジションはキャッチャーでした。二年生の後半には、キャプテンもしたそうです。わたしは、お父さんから聞いて、すごいんだなあと思いました。お父さんは今で

の葉をきれいにほうきではく仕事をしました。

げっけいじゆのえだは、ぼくと沙和で協力して運びました。沙和がげっけいじゆのえだをぼくにわたして、ぼくがそれを置く場所に運んでいきました。そして、もう少しで、仕事が終わりそうなお父さんがぼくに、「伸之、仕事を交たいしてくれ。」と言つたので、交たいしてあげました。

まつの葉をはく仕事は、とてもたいへんな仕事でした。とくに、へいの下にかたまっている葉は、とるのがたいへんでした。いちいち手でとつて、ほうきではかなければならなかつたからです。そして、やっとその仕事が終わつて家の中へ入ろうとした時、お母さんに、

「ごろうさん、伸之たちのおかげで、庭がとってもきれいなりましたよ。」

仕事をしていた時は、いやいやながらやっていた時が、仕事をやり終わった時は、いい気分がしました。ぼくは、少しでもお父さんやお母さんの役に立つたのでよかつたと思ひました。午後、ぼくは、庭で遊んでい

も、おとなの人に「野球をやろう。」と言われるとやります。わたしは、かたがたいのにがんばるなあと思います。そして、野球が大好きなんだなあとも思っています。

お父さんは、時々、本を買つてきてくれます。その時はうれいので、よばれても本を読んできて、返事をしないことがあります。すると、お父さんが、「よんでいねっか。」とちゅういします。わたしは、「いいじゃんか。」と口答えをします。すると、お母さんが

「だれのおかげで学校に行つてるの。」

わたしは、お父さんに、これ

と聞くので、わたしはふざけて「お母さん。」

と、いうときがあります。そんな時、お母さんは、「それじゃあ、おまえ、明日から学校へ行くな。」と、言つておこります。わたしは、すぐ

「うそ。お父さんらで。」

と、言います。すると、お母さんが、

「お父さんのおかげらら。」

と、言います。わたしは、お父さんが、かたがたい時も、一生けんめいに働らいてくれるから、学校へも来られるのだと思つています。

わたしは、お父さんに、これ



お手伝い

桐島小四年 永井 伸之

11月23日、きんろうかんしゃの日に、えだ運びをしました。10時45分ごろ、ぼくは、おかしを食べながらテレビを見ていました。そうしたら外の方から、おとうさんが、

「えだ運びをしてくれ。」

と、言いました。ぼくは少しやな気分できつをはき、外へでま

した。へいの外へ出たら、松のえだがたくさんありました。たくさんあつたのでいやになつてきました。二、三回やつたらほとんどなくなりましたが、お父さんがどんどん松のえだを落とすのできりがありません。お兄さんが、いやになつて、「これじゃあ、きりがな

と、ぐちをこぼしました。ぼくもいやになつて、ぐちをこぼしました。そして、何回か運んでやっとなくなりしました。やっとなつて家の中に入ろうとする時、お母さんが、

「あそこにある、げっけいじゆのえだをはこんでちょうだい。」

と言いました。お兄さんは、松

の葉をきれいにほうきではく仕事をしました。

げっけいじゆのえだは、ぼくと沙和で協力して運びました。沙和がげっけいじゆのえだをぼくにわたして、ぼくがそれを置く場所に運んでいきました。そして、もう少しで、仕事が終わりそうなお父さんがぼくに、「伸之、仕事を交たいしてくれ。」と言つたので、交たいしてあげました。

まつの葉をはく仕事は、とてもたいへんな仕事でした。とくに、へいの下にかたまっている葉は、とるのがたいへんでした。いちいち手でとつて、ほうきではかなければならなかつたからです。そして、やっとその仕事が終わつて家の中へ入ろうとした時、お母さんに、

「ごろうさん、伸之たちのおかげで、庭がとってもきれいなりましたよ。」

仕事をしていた時は、いやいやながらやっていた時が、仕事をやり終わった時は、いい気分がしました。ぼくは、少しでもお父さんやお母さんの役に立つたのでよかつたと思ひました。午後、ぼくは、庭で遊んでい





家族みんなでする冬がこい

島田小五年 八子 一美

私の家では、11月の半ばを過ぎると天気の良いを見ても家族みんな冬がこいをします。どうしてか、という冬になって雪がふると庭の木が全部おれてしまうからです。だから木がおれたりしないようになわでしぼったり竹をおっかけたりします。家はまさか、なわでしぼるわけにはいかないのです。板や柱をうまくみあわせて冬がこいをします。冬がこいは、1人では危なくってぜったいにできないので家族みんなでする。

冬がこいはまず天気をみて雪がふりそうかふりそうでないかで庭の方を先にやるか家の方を先にやるかきめます。今年、天気がよかったです。最初にやることにしました。最初にのりかかった木は、げんかんの前の大きなつじでした。でもこの木の冬がこいは、私達は手伝いませんでした。どうしてかわかりませんが、たぶん木の冬がこいは、はしごを木にかけた竹をかけたから危ない

って、どうしてもねむくなりません。でも父は、運転しているから、ねむくなつては困ります。たとえバスのお客さんがねむっていても、自分はねむれないなんて、とてもかわいそうです。それに何分……何時間も、運転しているの、疲れないでしようか？

と、目をつむって言います。冬になると、道路の除雪もしています。道路の除雪は、夜やるので、もちろん、夜、会社に行きます。冬だから、冷えこんで大変だなあ、と思います。除雪のない日は、会社に行きます。父の大変さが、この作文を書いた分かります。

たら、ミシンの使い方などを教えて、エプロンやぬいぐるみの服などを作りたいと思っています。忙しい時には、家に、服の生地を持ってきて一生けんめい、ミシンや針でぬうことがあります。ミシンやアイロン等を使う時は、気をぬかないで仕事をしてほしいです。



家族の一員として

島田小六年 藤田 三奈

ある日、朝早く私は、起きた。その時、母がいきなり、「足が痛い！」と言いだした。私は、「大変だ」と思ったが、すぐに治るだろうと思った。しかし、2、3日してもまだ痛いと言ったので、父が、となり町の小さな医者に行った。私は、その結果が楽しみでならない。夕方の6時ころに帰宅した。すぐさま母に、「どうだった、結果……。」と聞くと、医者に、「関節炎のおそれがある。」と言われたこと

母は、家の中で、一番大変なんだと、今、気づきました。また、服なんか作ってもらいたい。母の愛がこもって、ステキなドレスみたいですね。わたしの父と母の仕事、いや仕事は、気をぬくと大変なことになるのが分かりました。これからは、一生けんめいがんばってほしいです。

を聞き、私はがっかりとなった。母は、薬をもらって来たからすぐ治るだろうと言っていたが、私は、心配で、医学の辞典で、「関節炎」という病気がどういうものなのかを調べた。辞典によると、関節が痛み発熱をおこし、ひどくなると手や足が動かなくなるということが書いてあり、学校を休んで母の仕事をつたおうと思った。それはとうぜん無理なことだった。また2、3日たった日、私が学校から帰ると、母はとっくに仕事から帰っていた。ぐあいは、少しでも良くなるようにとマッ



父と母の仕事

桐島小五年 三輪 千春

わたしの家族は五人です。家族のうち、父と母の二人が働いています。わたしの父は、バスの運転手をしています。だから、父はわたしに「大きくなったら、バスガイドにならんか？そして、親子で仕事をしないか？」と、言ったことが何回かありました。

どこかへ行く人などが多いからです。わたしも、父の運転しているバスで、どこかへ行きたいです。きっと最高だと思います。もう、覚えてはいるけれど、わたしは小さい時、父が日曜日に行かないからさびしがったそうです。けれど、もう、慣れてしまいました。

なかつたことが、何回もありました。長い間、父の顔を見ていないと、やっぱり、さびしくなつてきます。しかし、それだけ忙がしいんだと思います。あつちに行ったり、こつちに行ったりして、体をこわさないかと心配になります。母も同じ気持ちでしょう。お客さんを乗せて運転するのは、大変な仕事です。命を預かって、運転をしているからです。バスが、ゆらゆらとゆれると、ゆりかごのように気持ちよくな

サージをしながら入った。ところがお湯につかると痛くて痛くてあまり入れなかつたようだった。だから5分くらいしか湯につかることができなかった。その後、部屋に入りマッサージさんと呼んでマッサージをしてもらうことにした。すると「すっごく良くなった。」

前までは、足の指にさわるだけで痛いと言っていたのに、マッサージをしても良かったら、何も痛くないと言っていた。

私は、ホッとしました。



私の家庭

桐島小六年 早川 香奈子

家に帰るとまたほんの少し痛さが増してきた。でもがまんができないほどではなかった。が、また県立病院に通った。私は、その結果が楽しみだった。母に結果を聞くと、

「血液にえんじょうが見られる。って言われたいやー。」

と返事を返された。

それからまた、ずーと病院に通い続け、今では、思ったよりもかいふくした。

今まで、母を心配して気を使いながら一生けん命に働いていた父を見て、

「すごいなー一日じゅう働きつくして何も家族に疲れを見せないなんて……。」

私の家は、七人家族で、農業をやっています。

父と母は、毎日夕方、または残業で夜おそくまで、私達家族のために、一生懸命に働いています。

ま、祖父祖母も、父母に負けないくらい家での仕事をがんばってやっています。

祖母は、花や、サボテンを育てるのが大好きだそうです。春は春、夏は夏、秋は秋、冬は冬と、一年間、私の家の周りには、四季おりおりに、とてもきれいな花がさきます。他の家の人達が、時々花やサボテンをもらいます。

にきます。そんな時、祖母はともうれしそうです。

他に祖母は、友達に料理の作り方を教えたり、おそわたりします。そしていろいろな料理に挑戦し、がんばって作った物は、とてもおいしいです。

祖父だつて、たくさんのお仕事があります。今、ようちえんの妹の送りむかえ、畑、田んぼの仕事、その他いろいろと祖母が用事があつて、家にいなかったりすると、祖父は、祖母の分も、仕事をやります。

祖父も祖母も、「まだまだ元氣。」と弱い体で私達家族のため

に、一生懸命に働いています。

私は、私達のために、家庭のために、がんばっている、父母、祖母に少しでもはやく休んでもらうために、お手伝いをしようと思つています。だから朝は、居間、ろうかなどのそうじ、夜は、夕食の手伝い、そうじ、その他をやっています。けれども、私が少しくらい手伝っても、まだまだ仕事が残っています。

ですから、勤労感謝の日に、たくさんのお仕事をしました。畑からとってきた、白菜、長ねぎなどを、ならべたりほしたりして重労働でした。仕事の手伝い

が終わると、服や、ズボンがどろだらけになりました。けれども、仕事をしたあとの昼食はとてもおいしかったです。しかし仕事をすると、とつてもつかれます。私は仕事をほんの少し手伝っただけなのに、私より、何倍も働いている、父母、祖父祖母、とてもすごいなあと、感心しています。

私が毎日のように買っているおかしなどの食べ物、まんが本や、服、文房具、その他好きな物が買えるのは、やっぱり、父母、祖父祖母のおかげだと思います。

私には、妹が二人います。私も妹も体の弱い、祖父祖母はもちろん、父母も大切にしています。四人とも、少しこわいけれど、大好きです。祖母は、こしや、かたなどが痛いそうです。ですから、私と妹二人は、少しでもよくなるようにと、かたなどを自分でやっています。祖母だけではありません。私は、父母にもやってあげます。少しいやだなど思う時がありますが、私達家族のために働いてきて、つかれていないわけにもいきません。けれど、やったあとほめられると



私はとてもうれしいです。少しはつかれがとれたかなと思います。

私も、妹の一人もならない物をしています。そのならない物の毎月のお金も、父母が働いてもらつたお金です。だから、お金もむだにならないように、がんばってソロバンや、ピアノの練習をしています。

父母が毎月ソロバンやピアノをならわしてくるので、算数で暗算ができるし、音楽では、音譜がスラスラ読めます。この点でも、また、父母、祖父祖母に感謝しています。

ならない物でも、ソロバンは、

ソロバンの試験、ピアノは、グレイド試験、または、ピアノ発表会があります。それは「毎月はらうお金、プラス、何何のお金」と、月謝以外にまたお金をはらわなければなりません。そんな時でも、父母は、こころよくはらってくれます。その時はとてもうれしいです。そして、父母のためにもがんばろうという気持ちになります。

このように、私達家族は、七人とも、助け合い、力を合わせてくらししています。これからおたがいに、努力し合つて今までのような、楽しい生活が続くよう、がんばっていききたいと思

います。

しかしその店ができる前、火事にあいました。資金がなかったため、食事の時間さえおしんで一日中売り歩いたというこ

とです。食事をとるのも、歩きながらパン一つかじっていたそうです。だから栄養失調のようになつて、首が細長く見えたそうです。

一日中歩いて遠くまで（出雲



生活にとって大切なもの

北辰中一年 山田 貴子

私の家は店を経営しています。これは、私の祖父の時代からです。祖母はこの時のことを思い出して、よく

「たいへんだつたて。」

と、疲れた様な顔つきで言います。私は本当に疲れただろうなと思います。それは、何も無いところから、少しずつ店づくりをしていったのですから。

祖母の話によると、前の店は今から三十二、三年前に建ちました。当時は物がなく本当に苦しい思いをしたそうです。まかごをかついで、いっぱい品物を入れて売り歩く……それが店の始まりです。そのお金を持ってまた仕入れに行く、それをくり返し、くり返して少しづつ、店をつくってきました。

しかしその店ができる前、火事にあいました。資金がなかったため、食事の時間さえおしんで一日中売り歩いたというこ

とです。食事をとるのも、歩きながらパン一つかじっていたそうです。だから栄養失調のようになつて、首が細長く見えたそうです。

一日中歩いて遠くまで（出雲

「たいへんだつたて。」

と、疲れた様な顔つきで言います。私は本当に疲れただろうなと思います。それは、何も無いところから、少しずつ店づくりをしていったのですから。

しかしその店ができる前、火事にあいました。資金がなかったため、食事の時間さえおしんで一日中売り歩いたというこ

とです。食事をとるのも、歩きながらパン一つかじっていたそうです。だから栄養失調のようになつて、首が細長く見えたそうです。

一日中歩いて遠くまで（出雲

「たいへんだつたて。」

と言つていた祖母の気持ちがかかるような気がします。

今、店は二代目の父がついていますが、父も店と商工会、ブルボンなどへの仕事に目を白黒させながらしているようです。だから、私や弟、妹もひまがあれば手伝いをしてあげます。店

「たいへんだつたて。」

と言つていた祖母の気持ちがかかるような気がします。

今、店は二代目の父がついていますが、父も店と商工会、ブルボンなどへの仕事に目を白黒させながらしているようです。だから、私や弟、妹もひまがあれば手伝いをしてあげます。店

「たいへんだつたて。」

と言つていた祖母の気持ちがかかるような気がします。

今、店は二代目の父がついていますが、父も店と商工会、ブルボンなどへの仕事に目を白黒させながらしているようです。だから、私や弟、妹もひまがあれば手伝いをしてあげます。店

父母が入れば、いつもの食事も三、四倍おいしく感じます。それほど家族はいいものです。私にとつて、家族はエネルギーのようなものです。友達もエネルギーだと思ふけど、家族はそれ以上だと思ふます。



家族一人くいで

北辰中二年 須佐清美



私の家は、父、母、姉そして私の四大家族です。父母は仕事で姉は高校生なので家に一番先に帰ってくるのは、ほとんどの日が中学生の私なのです。

私は小ぎ頃からカギツ子でした。でも小学生までならば、帰りは外がまだ明るいうちに帰ってこれるのですが、中学生ともなると部活などがあるため、学校から帰って来る時はもう外は真っ暗なのです。学校から家の途中までは、友達と一緒になので平気なのですが家の近くまで来ると外は暗く、家も真っ暗なのでとても家に入るのが恐く又、泥棒がいるんじゃないのかと思

い、いつも不安なので、家に入る時は必ず、自転車のヘルメットをかぶり、制服を入れている

袋を腹部のところでしたっかりともって、心の中で、「もし泥棒がでてきても頭部は、メット被ってるから棒で殴られても大丈夫だし、それに腹部は刺されても袋あるからなんとかなるな」と思つて家の中に入ります。すると家の中は真っ暗で、どこに何があるかわからなくて、すこしづつ前に進み電気のある所を、やっと手で見つけてつけると、すごく安心します。

そして、ヘルメットを取って寒い部屋に入つて、部屋を暖めておいてみんなの帰りを、私が待つのです。

私がいつも電気をつけ終つた時に思うことが幾つかあります。それは、明日もまた、これのくり返しなのかと思うことと、家に誰か私よりも先に帰り部屋を暖めて待つてくれる人がいればいいなと思ふこととそして最後に一つ、目が見えなくなつて良かったと思ふことです。

私には、帰ってくるのが恐ろしいことを、母に言いました。すると母は、「私が清美よりも先に帰つてきて暖めて待つてくれる人はいればい



「私がお兄ちゃん起つて大丈夫なのか？」と思ひながら、家に入つたのです。私が姉に「起つて大丈夫なの。」と聞くと姉は、「清美がいつも帰ってくる部屋が暗くてやだつて言つてたから、そろそろ清美帰ってくるなと思つて、電気をつけて暖かくして待つてやつたのよ。」と言つてくれました。

私はとてもうれしくて、すこ



家族

北辰中三年 斉藤英毅

僕の家族は五人である。祖母、母、僕、そして妹と弟である。父は数年前に病気で死んだ。それ以来、母が我が家族の生活を成り立たせている。

僕の家の朝は、とても早い。祖母は四時半頃には既に起きており、六時すぎに僕や妹を起こしてくる。それから、寒いのに外に出て掃除をする。家の中の掃除も毎日、全てやってくれる。冬はもつと早く起きて、外に行き毎日僕達のために雪をどけて道を作ってくれる。おかげで僕は、冬の朝はとても楽に学校に行ける。普通の日は、僕達や母が学校へ行ってから洗濯や、残っている掃除を終わらせて九時頃になってやっと朝食をとっている。僕がたまに休みの日など、祖母の仕事を見ていると、いかに僕達が学校に行っていることが幸せなのかよく解かる。

そして、更に驚く事がある。つい先日、朝起きてみると祖母がいない。僕より早く起きていた母に聞くと、

「檀家の方が亡くなって朝早くから出ていったよ。」と言つた。僕は本当にすごいと思つた。まだきつと寝ていた時間かもしれないのと思ひながら祖母を深く尊敬した。毎日の仕事だけでも大変なのに、こういう時早く起きて行くのもつと大変である。僕や妹、弟が早く大きくなって、祖母に負担をかけないようにしなければと思う。

妹は今、中学一年生。中学に入つてからは勉強が大変なのかよく勉強している。しかし、家の手伝いはあまりしない。人の事は言えないが、僕より遅く起きるし、寝起きも悪いので朝なんて手伝いは全くしない。勉強もいいが家の手伝いの方も、もつとたくさんやってほしいと思う。女の子であるし、将来何もできないのではどうにもならない。兄の僕からそう言いたい。

でも、僕はすこく妹を尊敬した事がある。もう前の話だが、



祖母

北辰中三年 久住直也

一九八八年、夏、これからもつと暑くなっていくという七月中旬に、僕の祖母、つまり父の母がこの世から去つてしまった。具合が悪かつたので医者にい

「檀家の方が亡くなって朝早くから出ていったよ。」と言つた。僕は本当にすごいと思つた。まだきつと寝ていた時間かもしれないのと思ひながら祖母を深く尊敬した。毎日の仕事だけでも大変なのに、こういう時早く起きて行くのもつと大変である。僕や妹、弟が早く大きくなって、祖母に負担をかけないようにしなければと思う。

僕は、最近テストづくめで大変である。受験をひかえてあと三ヶ月近くになつてしまった。もつともつと勉強して絶対高校に入つて家族のみんなに、安心してもらいたいと思つている。これからの生活、決して楽ではないと思う。でも、それを乗り越えてこれからはすばらしい家庭生活を送つていきたい。

「あなたの家のおばあちゃん、体悪かったの。」とおっしゃった。僕はどうしてそんなことを聞くのだろう。（まさか……）僕は悪い予感がした。

「え？まあ、はい。」

僕はあいまいな返事をした。「さっきお母さんから電話があった、おばあさんが亡くなったそうです。だから今すぐ家に帰って来てほしいそうです。」

僕の悪い予感的中してしまっただけだ、と友達と愉快に話をしていたりした。

僕は足の具合が悪かったのでサッカーはせずに試合を観戦していた。「バスだバス」「行け行け」と大声を出して叫んでいた。先生も一緒になってサッカーをして見ているだけでも楽しかった。そこへ早川先生がグラウンドに入ってきてサッカーをしている先生を呼んだ。僕は何か？とすこしだけ気になって先生方を見ていた。それから、

「おい直也、ちょっとこい。」と先生に呼ばれたのでそこへ行っただけだ。そうすると早川先生が、

「あなたの家のおばあちゃん、体悪かったの。」とおっしゃった。僕はどうしてそんなことを聞くのだろう。（まさか……）僕は悪い予感がした。

「え？まあ、はい。」

僕はあいまいな返事をした。「さっきお母さんから電話があった、おばあさんが亡くなったそうです。だから今すぐ家に帰って来てほしいそうです。」

僕の悪い予感的中してしまっただけだ、と友達と愉快に話をしていたりした。

僕は足の具合が悪かったのでサッカーはせずに試合を観戦していた。「バスだバス」「行け行け」と大声を出して叫んでいた。先生も一緒になってサッカーをして見ているだけでも楽しかった。そこへ早川先生がグラウンドに入ってきてサッカーをしている先生を呼んだ。僕は何か？とすこしだけ気になって先生方を見ていた。それから、

「おい直也、ちょっとこい。」と先生に呼ばれたのでそこへ行っただけだ。そうすると早川先生が、

「人がいっぱいくるから部屋をかたづけしておきなさい。」

と言ったので、少し時間がたつてから部屋をかたづけした。部屋のかたづけをしているうちにいろいろ混乱していた気がどこかへいってしまっただけだ。

祖母との思い出はたくさんある。僕が四六歳の時、父、母、兄、僕の四人で父の仕事の都合

「だから今の子供はダメなんだ。」

と、笑って話してくれました。ぼくは、これらの話を聞き終った時、何となく野性的なパワーと、踏まれても踏まれても立ち上がるような強い精神力は、こんな出来事からうまれるのではないかと考えました。

しかし、父が体験したようなハチャメチャな出来事は、今日の僕らは、もはや体験できないでしょう。



だから今の子供はダメだ

北辰中三年 八子 直樹

昭和63年度新潟県少年の主張
長岡・栃尾・三古地区大会発表作品

のため、十日町に引っ越しをした期間があったのだが、二、四週間に一回くらいの割合で祖父祖母の住んでいる和島村に土、日曜日を利用して帰り、幼なかつた兄と僕は、祖父、祖母の肩たたきをして過ごすか、いももちという事が、たびたびあった。ほかに、僕達と一緒に遊園地（安田アイランド）へ行ったり、野尻湖と一緒にボートに乗ったり、上越水族館へいったりした。その時の写真が僕のアルバムにしっかりと残っている。その祖母も、やはり年には勝てず老化現象が起こってきた。そして約

登場してきます。その内容をあげてみると、「最近の子供は、すぐ骨を折ったりするねえ。」とか「どうして今の子供は行儀が悪いんだろう。このくらいの作法は、わきまえてほしい。」とか、忍耐力がないや、あきつぽく一つの物事に熱中できない。や、変な所でおとなしい。や、口だけは達者だが、行動力に欠けている。などです。どれも聞く度に、心にグサッ

4年くらいベッドの上での生活だった。つらい事がどれほどあったかと思う。そして今年の7月にこの世から去ってしまった。先に亡くなった祖父のもとへ行かなくては、幸せだったので、一緒に幸せに暮らしてください。

「おばあちゃん。おじいちゃん。と、心の内で思う。」

おばあちゃん、おじいちゃん、天国で二人仲良く、幸せに暮してください。

人を迎えたいと言います。僕達に、やってみてほしい事はないのです。いつまでも親なんか心配なだけか、自分で責任を持たなければ、ならないのです。そして、多少とまどっても、自分が正しいと思った事は、ガンとやり直し、もし失敗したら、その時は親にウンときびしく、しかつてもらえたいのです。僕は、そんな経験をくり返して、親ばなれをしていくのだと思えます。

皆さん。今しかないのです。どんな事にも挑戦し、中学生だという自覚を、再確認しようではありませんか。

とくるような事柄ばかり、あげられていきます。しかしその反面、確かにその通りだなあ、と納得してしまふ事柄もありました。でも、僕が思うには、一つの事柄に全ての人が、あてはまることも思いませんでした。

僕は、父や祖父から、昔の話

「俺が北辰中に行っていた頃はなあ。忘れ物なんかすると、先生にボカスカはったかかれてなあ。あの当時の先生は限度というものを知らないかと思つたよ。あと授業がいやになると、友達と一緒にさぼつてな。学校の下にあつた店までいって、パン買って自転車小屋で食つたもんだ。と、昔懐かしげに話してくれました。その話を聞いた時、父は悪い生徒だったんだなあと思つた反面、そのドタバタぶりがかつても楽しかつたらうな。と感じました。

それから数日後、自分が体育祭で騎馬戦がやりたいと、言っている父が、昔の体育祭の事を話してくれました。

「今の体育祭は面白くねえなあ。今じゃあ騎馬戦もやっていないんだらう。俺達の頃は棒倒しという物もあつてな。みんなぶつかりあつて面白かつたな。それから仮装行列もあつてな。あ、敵の仮装をスパイに行かせたりすると半殺しになつて、帰ってきたもんだ。」

と話してくれました。それから父は、

「秋になると駅伝大会があつて

「俺が北辰中に行っていた頃はなあ。忘れ物なんかすると、先生にボカスカはったかかれてなあ。あの当時の先生は限度というものを知らないかと思つたよ。あと授業がいやになると、友達と一緒にさぼつてな。学校の下にあつた店までいって、パン買って自転車小屋で食つたもんだ。と、昔懐かしげに話してくれました。その話を聞いた時、父は悪い生徒だったんだなあと思つた反面、そのドタバタぶりがかつても楽しかつたらうな。と感じました。

それから数日後、自分が体育祭で騎馬戦がやりたいと、言っている父が、昔の体育祭の事を話してくれました。

「今の体育祭は面白くねえなあ。今じゃあ騎馬戦もやっていないんだらう。俺達の頃は棒倒しという物もあつてな。みんなぶつかりあつて面白かつたな。それから仮装行列もあつてな。あ、敵の仮装をスパイに行かせたりすると半殺しになつて、帰ってきたもんだ。」

と話してくれました。それから父は、

「秋になると駅伝大会があつて

「俺が北辰中に行っていた頃はなあ。忘れ物なんかすると、先生にボカスカはったかかれてなあ。あの当時の先生は限度というものを知らないかと思つたよ。あと授業がいやになると、友達と一緒にさぼつてな。学校の下にあつた店までいって、パン買って自転車小屋で食つたもんだ。と、昔懐かしげに話してくれました。その話を聞いた時、父は悪い生徒だったんだなあと思つた反面、そのドタバタぶりがかつても楽しかつたらうな。と感じました。

それから数日後、自分が体育祭で騎馬戦がやりたいと、言っている父が、昔の体育祭の事を話してくれました。

「今の体育祭は面白くねえなあ。今じゃあ騎馬戦もやっていないんだらう。俺達の頃は棒倒しという物もあつてな。みんなぶつかりあつて面白かつたな。それから仮装行列もあつてな。あ、敵の仮装をスパイに行かせたりすると半殺しになつて、帰ってきたもんだ。」

と話してくれました。それから父は、

「秋になると駅伝大会があつて

「俺が北辰中に行っていた頃はなあ。忘れ物なんかすると、先生にボカスカはったかかれてなあ。あの当時の先生は限度というものを知らないかと思つたよ。あと授業がいやになると、友達と一緒にさぼつてな。学校の下にあつた店までいって、パン買って自転車小屋で食つたもんだ。と、昔懐かしげに話してくれました。その話を聞いた時、父は悪い生徒だったんだなあと思つた反面、そのドタバタぶりがかつても楽しかつたらうな。と感じました。

それから数日後、自分が体育祭で騎馬戦がやりたいと、言っている父が、昔の体育祭の事を話してくれました。

「今の体育祭は面白くねえなあ。今じゃあ騎馬戦もやっていないんだらう。俺達の頃は棒倒しという物もあつてな。みんなぶつかりあつて面白かつたな。それから仮装行列もあつてな。あ、敵の仮装をスパイに行かせたりすると半殺しになつて、帰ってきたもんだ。」

と話してくれました。それから父は、

「秋になると駅伝大会があつて

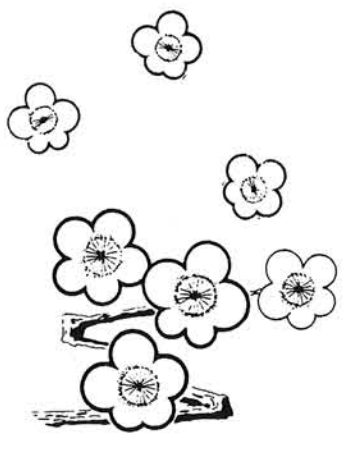
「俺が北辰中に行っていた頃はなあ。忘れ物なんかすると、先生にボカスカはったかかれてなあ。あの当時の先生は限度というものを知らないかと思つたよ。あと授業がいやになると、友達と一緒にさぼつてな。学校の下にあつた店までいって、パン買って自転車小屋で食つたもんだ。と、昔懐かしげに話してくれました。その話を聞いた時、父は悪い生徒だったんだなあと思つた反面、そのドタバタぶりがかつても楽しかつたらうな。と感じました。

それから数日後、自分が体育祭で騎馬戦がやりたいと、言っている父が、昔の体育祭の事を話してくれました。

「今の体育祭は面白くねえなあ。今じゃあ騎馬戦もやっていないんだらう。俺達の頃は棒倒しという物もあつてな。みんなぶつかりあつて面白かつたな。それから仮装行列もあつてな。あ、敵の仮装をスパイに行かせたりすると半殺しになつて、帰ってきたもんだ。」

と話してくれました。それから父は、

「秋になると駅伝大会があつて



村長室の黒板から

和島村長 佐野 隆

- 十一月二十一日 下水道トツ プレセミナーで新潟へ 上京
- 二十二日 村教育研究会 五日 出県、各課へ
- 二十三日 北辰中勤務の青菫 六日 再圃場整備検討委員会
- 同窓の諸先生の会合に出席 七日 長岡地区農業所得協と同地区農団との意見交換会
- 二十五日 信濃川水系協議会 八日 区長会議を開催、一年間の村政御協力を深謝する
- 二十七日 朝六時半消防団の 九日 三島北部大規模再圃場整備推進協議会
- 二十九日―十二月二日 全国 町村長大大会及び関連各大会の為 十日 与板衛生対策協議会

年末に際して

十一月 前助役大矢さん叙勲 祝賀に招かれ出席
 十二月 農業所得協地区会長 祝賀に招かれ出席
 十五日 若野浦耕地整理竣工式に出席
 十六日 朝から降雪烈しく除雪車出動 国保理事會

天皇陛下が九月十九日ご発病以来のご闘病に心から御平癒を祈念申し上げます。

平穏な気象で稲作も前年並みといわれる中で七月十日の集中降雨による被害者に心からお見舞い申し上げます。国会では税制審議が横行され併せてリクルー卜問題が論議されている。良寛の里構想推進について村内皆様特に地権者の御協力に深謝いたします。今年はこちらの事業推進に併せて文字通りふるさと創生が実現出来また村内全がよい年であるよう祈念して昨年の筆を擱きます。

| | |
|-----------|------|
| ※ 村県民税 | 第4期分 |
| ※ 国民健康保険料 | 1月分 |
| ※ 国民年金保険料 | 1月分 |
| ※ 幼稚園保育料 | 1月分 |
| ※ 保育所保育料 | 1月分 |
| ※ 水道使用料 | 1月分 |

今月の納税

☆ ワシマ ☆

村民卓球大会

12月11日公民館主催の村民卓球大会が行われ熱戦が繰り広げられました。成績は次のとおりです。

| | |
|------------|------------|
| 一般団体戦 | 2位 平本 朋之 |
| 1位 駅 前 | 3位 山田 道紀 |
| 2位 島田地区農協 | 3位 齊藤 仁 |
| 一般個人戦男子の部 | 小学生個人戦男子の部 |
| 1位 佐々木貞夫 | 1位 関川 大輔 |
| 2位 川瀬 雅彦 | 2位 佐藤 嗣実 |
| 3位 山口 信三 | 3位 早川 洋介 |
| 3位 山田 一雄 | 3位 中村 宏之 |
| 一般個人戦女子の部 | 小学生個人戦女子の部 |
| 1位 中村 陽子 | 1位 早川 愛子 |
| 2位 玉木 康子 | 2位 早川 安奈 |
| 3位 久住由美子 | 3位 丸山 美樹 |
| 中学生個人戦男子の部 | |
| 1位 早川 進 | |



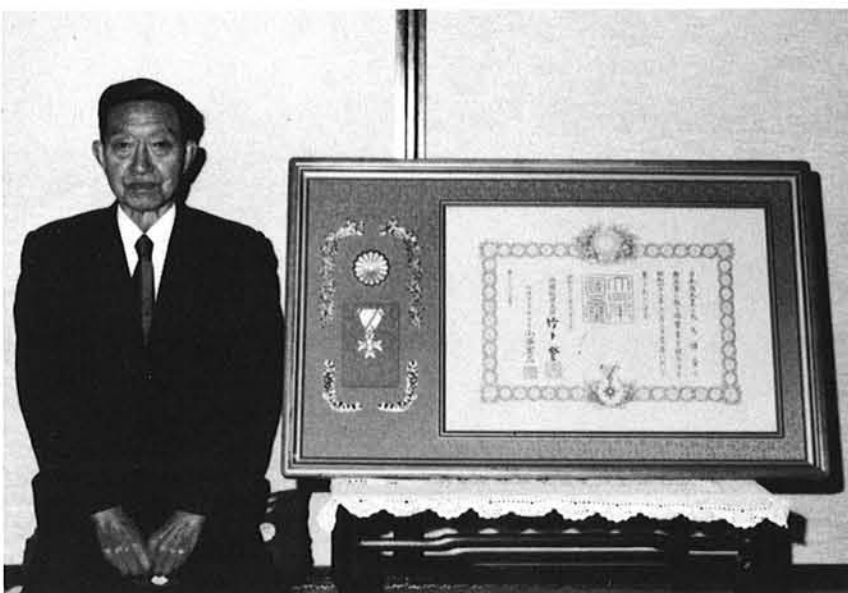
楽しく痛く!!

アイススケート教室

B&Gワシマ海洋クラブでは第四回アイススケート教室を、クラブ員、父兄約六十名参加のもとに小出町レインボータウンで行いました。大人も含め初心者是指導員より講習を受けましたが、なかなか立つこともままならず、尻もちの連続!! でも午後には手すりからも離れリンクの流れに乗り快走?しておりました。



☆ スポット ☆



おめでとう 勲五等瑞宝章

中沢の大矢猶孝氏は昨秋の三十年間村の特別職として村政叙勲で勲五等瑞宝章を授賞されました。大矢氏は昭和二十八年十月に島田村の収入役に就任され、以来、和島村の収入役、助役を歴任され、昭和五十八年八月まで現任村の監査委員として活躍中でありました。これからも、村の発展や地域住民福祉のためにご尽力下さるようお願いいたします。

実戦さながらの 火災想定訓練



十一月二十七日(日)、和島保育所で朝六時三十分に出火を想定し、消火訓練を実施しました。この日、村の消防ポンプ自動車二台や積載車四台のほか与板郷消防署からも応援をもらい、総勢百十名が参加して実戦さながらの訓練を行いました。訓練は旧村営プール前の小島谷川から取水し、教員住宅前の駐車場で中継槽を設け、そこから幼稚園前で再び中継し、保育所の山に向けて放水しました。これから寒さが一段と厳しくなりますので、暖房機具の取扱いは十分注意し、消火栓には赤い布などの目印をつけるようにしましょう。

防犯灯の寄贈

昨年暮れ、東北電力(株)燕営業所から地域の防犯に役立てて欲しいと、防犯灯五灯いただきました。これは希望集落に配置され、地域住民の方から大変よろこばれています。



善意を ありがとうございます

社会福祉に役立ててほしいと村社会福祉協議会に次の方よりご寄附をいただきました。厚くお礼申し上げます。
 城之丘 羽鳥一義さん
 川端 早川盛雄さん
 三瀬ヶ谷 加勢栄一さん
 荒巻 山田八郎さん

お知らせ広場

和島保育所

入所申請を受付いたします

- 1、入所資格
和島村に住所を有し なおかつ家庭において保育が困難な状態にある乳児（満1歳に満たない者）及び幼児（満1歳から5歳までの者）
- 2、定員
120名
- 3、申請受付
(1)日時 1月18日(木)島田地区
1月19日(木)桐島地区
午前9時～午後4時
(2)場所 保育所 事務室
- 4、申請方法
役場住民課又は保育所に申請用紙が用意してありますので、必要事項を記入の上、当日ご持参下さい。
- 5、保育料について
現時点では昭和64年度の国の徴収基準が決定しておりませんので、基準が決まり次第村の基準を作り、申請後それに基づき保育料を決定します。
《算定方法は、児童と生計を同じくする家族全員（児童の叔父、叔母は除く）の前年分の所得税額等の合計による階層区分による》
- 6、その他
不明な点がありましたら、役場住民課まで照会下さい。
(TEL 74-3111 内線28)

昭和六十四年度
の幼稚園の入園に
ついてお知らせい
たします。

◆入園の申し込み
は早目にお願いい
たします。

◆入園できる子供
は
昭和五十八年四
月二日～昭和五
十九年四月一日
までに生まれた
子供

◆受付期間は
一月十七日～一月三十一日ま
で

◆提出場所は
和島村教育委員会へ
入園願の用紙と幼稚園に関す
る説明書は保育所を通じて子
供の家庭へお届けいたします。

不明な点は、次へ
○教育委員会 七四一三一
○幼稚園 七四一三六八

和島幼稚園

入園願のお知らせ

新潟県が立県百年の記念事業として編さんを進めている「新潟県史」は、昨年度に続いて、昭和六十四年三月に二巻が刊行されます。

本年度刊行予定の別編二巻は、新潟県の歩みと通史編九巻の総索引を併録した「別編一年表・索引」、新潟県内外の諸家・諸機関に所蔵されている当県関係資料の所在状況をまとめた「別編二資料所在目録」です。

本年度をもちまして、新潟県史全三十七巻のうち、通史編九巻・資料編二十四巻・別編三巻の計三十六巻の刊行を終了することになります。この機会に、多くの皆様の御購読をお勧めします。

★昭和六十三年刊行巻の領布価格
別編一年表・索引 三、七〇〇円
別編二資料所在目録 四、四〇〇円
(分売可・送料別)

★申し込み先
〒950 新潟市新光町四番地一
新潟県総務部史編さん室
☎三三六五二二(内)三〇二

★申し込み方法 官製ハガキに、住所・氏名・購入巻名・部数・公私用別・電話番号などを記入して、お申し込みください。
また、各巻の概要を記したパンフレットを用意しましたので、御希望の方は御請求ください。

働きながら 高等学校教育を

働きながら高等学校教育を受けることができる定時制・通信制課程の生徒を次により募集しています。

◆募集している学校
定時制 県内の公立高等学校十六校二十二学級
通信制 新潟高等学校(〒951 空)新潟市関屋下川原町二丁目六三五番地
高田南高等学校(〒953 上越市南越町三丁目三番八号)の二校

◆応募資格

○昭和六十四年三月に中学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者
○中学校を卒業した者と同以上の学力があると認められる者

◆問い合わせ

※年齢・性別を問わない。
県教育庁高等学校教育課
(〒950 新潟市新光町四番地二) ☎三三六五二二 内線三六八

農業委員会委員選挙人名簿登載申請書の提出

毎年、一月一日現在による農業委員会委員選挙人名簿登載申請書を農業委員会まで提出しなければなりません。

次の事項に該当する方は、一月十日までに提出してください。

- 一、和島村農業委員会の区域内に住所を有する者であること。
- 二、年齢が満二十歳以上の者であること。三月三十一日現在(昭和四十四年四月一日生れまで)二十歳に達する者も記入してください。
- 三、十アール(一反歩)以上の農地につき耕作の業務を営む者。
- 四、耕作従事日数が年間おおむね六十日以上のある者。
- 五、申請書の記入事項はすべて昭和六十四年一月一日現在の状況を記入すること。

以上申請書の裏面にも記載してありますが、不明な点は農業委員会に問い合せください。

▲一月中の国民年金▼

◎60歳になる人
昭和四年一月二日から昭和四年二月一日生まれの方は、掛金を掛け終わりました。
老齢基礎年金の繰り上げ請求を希望の方は、請求できます。
◎65歳になる人
大正十三年一月二日から大正十三年二月一日生まれの方は、老齢(通算老齢)年金の請求をしましょう。

◎現況届を出す人
今月生まれの出給者の方は、現況届のハガキが届いたなら、忘れずに早めに証明を受けて出しましょう。

期限まで提出しない場合は、年金が一時差し止めとなります。

すばやくあなたの110番

事件・事故見たら聞いたら110番

110番のかけ方

- 何が(交通事故、けんかなど)
- どこで(現場の町名、道順、目標物など)
- いつ(何時何分ころ、何分前ころ)
- 犯人は(人相、服装、車のナンバー、色など)
- あなたは(氏名、住所、電話番号など)

110番通報は、事件・事故のスピード解決になります。



1月の心配ごと相談

日時…17日、25日、
午前9時から正午まで
場所…福祉センター老人室
内容…生活相談・医療相談・家事相談・児童相談・年金相談・身障相談・職業相談・その他なんでも
その他…相談内容は秘密で費用は無料です。

おかあさん わすれちゃダメよ!

—保健衛生行事—(1月)

| 月 | 日 | 曜 | 種 | 目 | 対 | 象 | 時 | 間 | 場 | 所 | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----------|--------|
| 1 | 20 | 金 | リ | ハ | ビ | リ | 訓 | 練 | 希 | 望 | 者 | 午後1時～3時半 | 福祉センター |

